

平成19年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	暦象オーサリング・ツールによる危機管理研究	研究代表者名	友部 謙一
-------	-----------------------	--------	-------

※該当箇所（ ）に○等の印を付け、意見を記入してください。

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア（ ） 予定以上に達成した
- イ（○） 概ね予定どおり達成した
- ウ（ ） 一部不十分である
- エ（ ） 達成していない

意見：
オーサリング・ツールを最大限に利用し、ある出来事に関する時間属性、空間属性、記述属性を統合的に扱うことを可能にし、人文学におけるコンピュータ利用の可能性を具体的な成果とともに提示した。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア（ ） 十分に貢献できた
- イ（○） 概ね貢献できた
- ウ（ ） 一部貢献できた
- エ（ ） 貢献できていない

意見：
研究成果が国内外の学会および学会誌で公表され、これまでとは異なるマクロの視点からの研究の可能性を示した。当該学問分野および関連学問分野の発展に概ね貢献していると思われる。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア（ ） 非常に高く評価できる
- イ（○） 概ね高く評価できる
- ウ（ ） 一部高く評価できる
- エ（ ） 高く評価できない

意見：
本研究の目的の一つであるネットワーク型オーサリング・ツールの開発は高く評価できる。もう一つの長期データベースの構築に関しては、予定された4つの分野のうち、環境・災害以外は、概ね当初の目的を達したと言える。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア () 非常に高く評価できる
- イ (○) 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
内外の学会、学会誌に成果を公表している。
このプロジェクトにより開発された暦象オーサリング・ツールの研究・教育現場における適用可能性は大きいと思われるが、普及については、今後の努力によると思われる。

4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A+	期待以上の進展があった
○	A	期待どおり進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

総合的な評価意見：

現代社会では、気候変動、貧富の差の拡大などさまざまな危機が予測されているが、実践的にも学問的にも有効な対策を見出せていない。本研究は、ネットワーク型オーサリング・ツールを開発し、そのツールを利用した各種データの蓄積と分析を通じて「危機管理」研究を目指したものであり、時宜にかなった研究と言えよう。政治経済分野、疾病・感染症分野、公益保全分野において具体的な成果を出している点高く評価できる。当初目的にあった環境・災害分野においても具体的な成果が出ることを期待したい。また、本研究の成果がより広く学会および社会で知られ、活用されることも期待したい。